

令和２年度 第１回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨

令和２年度第１回津市教科用図書調査研究委員会は、三重県から新型コロナウイルス感染拡大阻止緊急宣言が出されていたこと及び三重県教科用図書選定審議会が書面での会議を実施したこと等を受け、本委員会でも書面での会議を実施し、意見書の提出により議決を行った。その結果、協議内容について全会一致で可決された。

1 日時

令和２年５月７日（木）に書面を送付し、令和２年５月１１日（月）までに意見書を回収した。

2 出席者

津市教育長	森 昌彦
津市教育委員会委員	富田 昌平
校長代表	
南が丘中学校長	小宮 敬徳
草生小学校長	飛岡 美穂
幼稚園代表	
川合幼稚園長	久保田 智子
保護者代表	
津市ＰＴＡ連合会	眞部 貴子 富田 貴広
事務局	
学校教育・人権教育担当理事	片岡 長作
教育研究支援担当参事兼教育研究支援課長	伊藤 雅子
教育研究支援課主幹	伊藤 暢浩
教育研究支援課副主幹	本多 史明

3 事項

- (1) 委員の委嘱・任命
- (2) 委員紹介
- (3) 規約の確認
- (4) 会長の確認と副会長の確認
- (5) 議事

ア 連絡事項

- (ア) 中学校の教科書採択について
- (イ) 津市教科用図書調査研究委員会について
- (ウ) 教科書採択に関する公正確保の徹底について
- (エ) 調査研究等のスケジュールについて

イ 協議事項

- (ア) 教科用図書採択地区における中学校で使用する教科用図書の採択基準について
- (イ) 中学校教科用図書の調査実施項目について
- (ウ) 中学校用教科用図書調査実施結果一覧表について
- (エ) 令和3年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）について
- (オ) 調査員の委嘱について

4 決定事項

- (1) 令和2年度津市教科用図書調査研究委員会委員について
調査研究委員会委員は別紙1のとおりとし、津市教育委員会が委嘱する。
- (2) 津市教科用図書調査研究委員会規約について
津市教科用図書調査研究委員会規約は別紙2のとおりとし、変更無しとする。
- (3) 津市教科用図書調査研究委員会会長及び副会長について
会長を森昌彦委員、副会長を富田昌平委員とする。
- (4) 中学校の教科書採択について
教科書採択の概要については、資料1のとおりとする。
- (5) 津市教科用図書調査研究委員会について
津市教科用図書調査研究委員会の組織構成については、資料2のとおりとする。
- (6) 教科書採択に関する公正確保の徹底について
教科書採択に関する公正確保の徹底については、平成29年4月28日付三重県教育委員会教育長発出文書「教科書採択に関する公正確保の徹底について（通知）（写）」資料3のとおりとする。
- (7) 調査研究等のスケジュールについて
スケジュールについては、資料4のとおりとし、第2回津市教科

用図書調査研究委員会については後日調節する。

- (8) 教科用図書採択地区における中学校で使用する教科用図書の採
択基準について

令和3年度中学校において使用する教科用図書の採択基準につ
いては、「教科用図書採択地区における中学校で使用する教科用図
書の採択基準」資料5のとおりとする。

- (9) 中学校教科用図書の調査実施項目について

調査実施項目については「中学校教科用図書の調査実施項目」資
料6のとおりとする。

- (10) 中学校用教科用図書調査実施結果一覧表について

中学校用教科用図書調査実施結果一覧表については様式1のと
おりとし、各発行者の教科用図書見本本の特徴を一覧表にまとめ
る。

- (11) 令和3年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）について

令和3年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）につい
ては様式2のとおりとし、該当教科書が他者と比較して優れている部分
を簡潔かつ明確に記述する。

- (12) 調査員の委嘱について

調査員の委嘱については資料7のとおりとし、調査員の代表に
は地域において指導的立場にある管理職から選定する。また、調査
員には、専門的知識を有する主幹教諭、指導教諭、教員、そして、
保護者の代表を選定する。

5 その他

参考資料として、教科書採択に係る法律及び新しい学習指導要領
の資料を配付した。

以上、第1回調査研究委員会の議事要旨とする。

令和2年度 津市教科用図書調査研究委員会

会 長

森 昌彦 

副会長

富田 昌平 

令和２年度 第２回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨

1 日時

令和２年７月１７日（金）

午前９時００分から午後５時００分まで

2 場所

津市教育委員会庁舎 ４階 教育委員会室

3 出席者

津市教育長

森 昌彦

津市教育委員会委員

富田 昌平

校長代表

南が丘中学校長

小宮 敬徳

草生小学校長

飛岡 美穂

保護者代表

津市ＰＴＡ連合会

眞部 貴子

富田 貴広

事務局

学校教育・人権教育担当理事

片岡 長作

教育研究支援担当参事兼教育研究支援課長

伊藤 雅子

教育研究支援課主幹

伊藤 暢浩

教育研究支援課副主幹

本多 史明

4 事項

(1) 開会・会長挨拶

(2) 令和２年度 第１回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨の確認

(3) 教科書展示会の報告

(4) 議事

ア 各種目別調査員会による調査結果等の報告及び令和３年度使用中学校用教科用図書採択候補について

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

(イ) 採択候補について

(ウ) 調査研究結果の検討

(5) その他連絡事項

(6) 閉会

5 各事項の要旨

(1) 事項(1)について

開会 森会長から開会挨拶

会 長：お忙しい中、当委員会に御出席を賜りまして、どうもありがとうございます。本来なら、本日が1学期の終業式で、明日から夏季休業を迎える日ですが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、学校では普段と違う運営をしていただいているところです。まだ、先が見えない状況で、大きな都市では感染者が非常に多くなってきており、子ども達を見守っていかねばならない本当に心配な状況が続いております。また、子ども達は8月3日から夏季休業に入り、8月17日から登校します。その中で、一番心配しているのは熱中症対策です。その点でも、学校、又は、御家庭での御支援をお願いいたします。その一方で、GIGAスクール構想による一人一台端末の整備が進み、大きく学校のあり方が変わろうとしています。パソコンやタブレットが文房具の代わりになる時代がいよいよやってきます。本日、御協議いただく教科書についても、デジタル教材の活用が工夫されている時代になっていきます。それらの内容についても十分に検討していくべきだと思います。そのような意味でこの会議は非常に大きな役割を持つと考えています。本日は令和3年度使用の中学校の教科書として、最もふさわしいものを皆様のお力添えをいただいて決めていただくことになります。この委員会では「教科書の調査研究の一層の充実を図ること」、「適正かつ公正な採択を確保すること」、「開かれた採択を推進すること」などを基本的な方針とし協議を進めてまいりますので、本日は1日という長時間になりますが、忌憚のない御意見をいただき、活発な御協議をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(2) 事項(2)について

「資料 1 令和 2 年度 第 1 回 津市教科用図書調査研究委員会 議事要旨」が承認された。

(3) 事項(3)について

事務局から「資料 2 教科書展示会の報告」のとおり説明があった。

(4) 事項(4)について

ア 各種目別調査員会による調査結果等の報告及び令和 3 年度使用中学校用教科用図書採択候補について

種目数が多いので、種目ごとに、各見本の調査報告、採択候補についての報告、調査研究結果の検討という順番で質疑応答及び協議を行った。

なお、各教科用図書見本の特徴は中学校用教科用図書調査実施結果一覧表にまとめ報告した。

【国語】

(ア) 各見本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(光村：国語)

委員：4 者の教科書はどれも優れていると思う。選定案以外の 3 者が選ばれなかった理由は何か。

代表：もう少し工夫があればよかったという観点で検討した。例えば、学習のめあてと振り返りの構成、思考ツールの活用方法、教材の長さや量、印刷の字の濃淡等について、選んだ教科書と比べるともう少し工夫が必要と判断した。

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：他の 3 者との違いも明確に報告していただいたので、よいと思う。

光村の「国語」が選定案として決定された。

【書写】

(7) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：B判とAB判の違いで、AB判は少し大きくて、書写の学習活動の際には、スペースを取り過ぎるということであるが、一方でAB判にはB判にはないような欄外のスペースが設けられ補足説明がされていることについての評価はどうか。

代表：B判の教科書においても中身や補足説明はしっかりと掲載されているので、B判でも十分と判断した。

委員：光村の教科書は前半に書写ブックが付いていて、取り外しができる。しかも、ページ数が連続している。これは実際にどのように使うのか。

代表：例えば、生徒が書写ブックを使って学習し、取り外して教師に提出する。教師は授業後に学習の様子を確認し、コメント等を入れて返却する等の使い方が考えられる。

委員：書写ブックはなぜ前に付いているのか。

代表：教科書の前に付けていると、3年間でどのような学習をするのか確認することができ、生徒達は見通しを持って学習に取り組むことができる。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(光村：中学書写一・二・三年)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：小学校の採択でもサイズの違いをどう捉えるかという議論が行われた。小学校ではワイド版が選ばれたが、欄外のスペースに書き順や教科書との関連性とかの情報が載せられていて便利だと感じた。小学生には分かりやすい情報が必要だと思うが、中学校の教科書はそのような情報がそれほど重要視されていないと感じた。

委員：書道は書き順が大切だと思うが、特に、書き順を重

要視して取り上げられている感じではない。

委員：中学生はあまりワイドなところの情報より、手本の方に重点を置いているということだと思う。

委員：そうであれば小さい方がよいという考えもできる。

光村の「中学書写一・二・三年」が選定案として決定された。

【社会及び地図】

(7) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

<地理的分野>

委員：最初に2者に絞ったということだが、どのような観点で絞ったのか。

代表：4者の同じ単元で、中学校用教科用図書調査実施結果一覧表の調査項目に基づき、より優れているという観点で比較した。地理的分野なので、地図、資料、写真の見やすさや分かりやすさ等に重点を置いた。そして、生徒が分かりやすく、教師が授業を進めやすい展開になっているかも検討した。

委員：領土問題については各者取り上げられているか。

代表：領土問題については、各者、写真等も使い取り上げている。

委員：表現は「固有の領土」としているのか。

代表：そのように表現されている。そして、歴史的な経緯とこれまでの様々な交渉についても、資料を取り入れて掲載されている。

委員：他の教科に比べてQRコードが少ない印象があるが、アクセスした内容はどのようなになっているか確認したか。

代表：どの教科書にもQRコードは設定されており、確認した。

委員：内容は具体的には動画が多いのか。

代表：動画が多い。

委員：QRコードがもう少しあってもいい。

< 歴史的分野 >

委員：地理では同じ単元で2者を比較して違いを報告していたが、歴史も同じ単元で比較して違いを比べたのか。

代表：歴史も同じ単元で比較した。歴史なのでどの教科書も年代、年表で区切られているが、グループでの話し合いの仕方、振り返りまとめの方法の提示など、各者で工夫されている。

委員：東書は探求のステップが示されていて、学習の流れに一貫性がある。指導するにはすごくよい。また、自分の考えを深める形でグループディスカッションを取り入れた編集になっていて評価できる。しかし、歴史は子どもによって興味関心のある時代が様々で、それぞれにこの時代のこの話が面白いとか、また、自分達の趣味の分野にどんどんつなげていくような展開もあると思う。探究のステップは1つの問いに集約されることも考えられるが、そういう議論はされたか。

代表：学習の見通しが持てる形式がよいと考えた。歴史の授業を基に、それぞれの興味関心を広げていければと考える。

委員：教科書は偏りがあってはいけない。フラットな立場で調査しなければならない。例えば、エルトゥール号というトルコの船が遭難した出来事が最近の教科書では取り上げられているが、この学習内容を帝国と東書で比較すると東書は明らかによく書かれている。しかし、日文はもっと詳しく取り上げられている。現在使用している教科書が日文であり、他者の教科書と比べて詳しい記述もあるので、採択変えにあたり、どのような議論がされたのか、もう少し詳しく報告するべきである。

代表：現在使用している教科書が日文であり、実際に日本の教科書を使用し授業をしている調査員の意見も反映して議論を進めた。教科書は検定を通過しているものなので、他者と比較してよりよい点はどこなのかというこ

とに重点を置いて検討した。その中で、東書は市民革命や産業革命等の指導事項が年代順に並べられており、このような編集は生徒にも分かりやすく、教師にとっても指導しやすいと評価した。

委員：採択変えについて明確な理由があればいい。今、使用している教科書も議論を重ねて採択した教科書なので、採択変えの時には、慎重に議論した結果を報告することが説明責任として必要である。

< 公民的分野 >

< 地図 >

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(地理的分野：帝国 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土)

(歴史的分野：東書 新しい社会 歴史)

(公民的分野：東書 新しい社会 公民)

(地図：帝国 中学校社会科地図)

(ウ) 調査研究結果の検討

事務局：歴史的分野が日文から東書に変更するという選定案であり、東書のよさを中心に報告していただいたが、日文との比較についても議論しているので、その観点でもう一度整理すること、そして、生徒や教師が使いやすいという報告であったが、具体的にどういうところが使いやすいのか、もう少し整理して教育委員会で報告するように伝える。

委員：共通した項目で比較し報告するとよい。

委員：QRコードの使いやすさについては、今後 GIGA スクール構想の中で、一人一台端末が導入され、家庭でも学習ができるようになった時に、教科によって違いがあり、生徒が迷うことがあってはいけない。表示や読み取りの方法が統一されるとよい。

委員：しっかりと議論はしていただいている。しかし、歴史的分野は現在使用している教科書から変更すると

ということと、いろいろな意味で注目をされる教科である。そのような理由から、選定案について丁寧な説明が必要である。

事務局：教育委員会での報告の際には、さらに整理していただくように伝える。

帝国の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」、東書「新しい社会 歴史」、東書「新しい社会 公民」、帝国「中学校社会科地図」が選定案として決定された。

【数学】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(啓林館：未来へひろがる数学)

委員：啓林館のよさはよく分かった。競合するのは東書だと思うが、足りなかった部分はどんな点か。

代表：それぞれの教科書の充実している点について協議し選定案にふさわしい教科書を判断した。東書も全体的に非常に見やすく、章の冒頭、導入の課題も分かりやすく魅力的である。しかし、二次元コードや「自分から学ぼう編」という付属の教材が充実している点で啓林館がよりよいと判断した。

委員：啓林館の二次元コードを活用する場合は一人一台端末の整備が前提となる。タブレットは持ち帰って家庭学習でも使えるということになるのか。家庭で使う時に、答えが見ることができないというようなことはないのか。

代表：タブレットの活用については、今回のコロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業等への対応時に、各家庭にどのような端末があるのか調査を行った。その調査を踏まえ、二次元コードを活用できる家庭においては、家庭学習において十分に活用する。活

用できない家庭については、教師がプリントアウトして届ける等で十分に対応できると考える。

(ウ) 調査研究結果の検討

啓林館の「未来へひろがる数学」が選定案として決定された。

【理科】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(啓林館：未来へひろがるサイエンス)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：説明にあったように、啓林館がすごくよい。いろいろな実験観察をしながら、これだけの幅広い知識を3年間で身に付けることはすごいことである。

委員：啓林館は安定している。この教科書を教師がどう使いこなすかが大切である。理科離れが進んでいる中、生徒にどのように興味関心を持たせるか、内容を吟味しなければならない。

啓林館の「未来へひろがるサイエンス」が選定案として決定された。

【音楽】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

<一般>

<器楽合奏>

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(一般：教芸 中学生の音楽)

(器楽合奏：教芸 中学生の器楽)

(ウ) 調査研究結果の検討

教芸の「中学生の音楽」と教芸の「中学生の器楽」が選定案

として決定された。

【美術】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(日文：美術 1 美術との出会い、美術 2・3 上 学びの実感と広がり、美術 2・3 下 学びの探究と未来)

(ウ) 調査研究結果の検討

日文の「美術 1 美術との出会い、美術 2・3 上 学びの実感と広がり、美術 2・3 下 学びの探究と未来」が選定案として決定された。

【保健体育】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：新しい保健体育)

(ウ) 調査研究結果の検討

東書の「新しい保健体育」が選定案として決定された。

【技術・家庭】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

<技術分野>

委員：プログラミング教育は技術の中で取り上げられるのか。

代表：技術の中でも取り上げる。

<家庭分野>

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(技術分野：新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る)

Technology)

(家庭分野：新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を
目指して)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：同じ学習内容等で比較して、もう少し違いがよく分かるように報告しなければならない。

事務局：新学習指導要領の実施に伴い、プログラミング教育が実施されるので、今までの教科書とどのように変わってきたのか、それが東書においては、どのような点で優れているのかをもう少し整理し、教育委員会で報告するように伝える。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点について、保健体育や家庭において、どのように取り上げられているのか改めて確認し、教育委員会で報告するように伝える。新学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びの実現のために、思考ツールは教科においても注目を浴びている。その点が充実しているということは、1つの検討材料になる。

委員：思考ツールは技術の時間に使うのか。

事務局：これからは各教科で取り入れられる。

委員：技術と家庭の時数は週1時間ぐらいだと思うが、教科書がすごく分厚く、他の教科に比べて削れそうな部分を全然削ってないと感じる。

東書の「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る

Technology」と「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」が選定案として決定された。

【英語】

(7) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：新学習指導要領の実施にあたり、その教科書に組み入れられた特徴的なものや、教科書会社で力を入れているところは具体的にどこか。

代 表：選定にあたり大切にすることは、教科書の内容が、主体的・対話的で深い学びが実現できるかということ。また、オーセンティックな英語、要するに本物の英語、使える生きた英語にどこまで迫れるかということである。実際の生活場面で、どのような表現を使って人とコミュニケーションを取ることができるか、設定された言語活動の中でどこまで迫ることができるかを検討した。例えば、NEW HORIZONだと、学習の流れが大きく3つに分かれる。まず、Mini Activityで自分達に関わりのある内容をしっかりと学び、さらに、ユニットのまとめとしてUnit Activityが設定されている。そして、最後にStage Activityで仕上げるという構成になっている。このようなActivityを通じて人と関わり合いながら、主体的・対話的で深い学びが実現され、使える生きた英語が身に付けられるように工夫されている。それぞれの教科書で工夫されているが、特に、NEW HORIZONはよい構成になっている。また、どの教科書にもQRコードが取り入れられている。そのQRコードを使ってアクセスし、提示されるコンテンツも、NEW HORIZONはアニメーションなどを取り入れ、中身がよく工夫されている。他にもNEW CROWNの2年生の教科書では、学習したことを生かし、自分達で修学旅行のプランを立て、それを英語で発信するという、アウトプットの表現も身に付けられるように、工夫された構成となっている。

委 員：他の教科に比べて教科書の構成がなかなか分かりにくい。この單元ではどのようなねらいがあつて、何を学習をし、どんな力が身に付いたかを振り返り、どのように評価するのかが分かりにくい。振り返りや自己評価の方法等、教科書ではどのように示されているのか。

代 表：NEW HORIZONだと、教科書の随所にCan Doリ

ストが示されている。学習内容のチェック表で生徒が振り返りをできるように細かく示されている。イラスト等も取り入れ、生徒が分かりやすいように工夫されている。他の教科書でも巻末に Can Do リストが設けられている。

委員：Can Do リストは主観的・感覚的評価のように感じる。実際にどういう力が身に付いたのかということが、生徒には分かりにくいのではないか。小学校もこのような Can Do リストで学習を振り返るのか。

事務局：小学校は NEW HORIZON を使用しているが、ピクチャーディクショナリーという、英語の単語をイラストで紹介している小さな冊子がある。その巻末に 5・6 年生の Can Do リストの資料がある。ユニットの第 1 時に必ず Can Do リストを確認し、そのユニットが終わる頃には、何ができるようになっていればいいのかを把握し、見通しを立てて学習に取り組むようにしている。そして、ユニットの学習が終わった時にもう一度 Can Do リストを確認し、目標が達成できたかを振り返るようにしている。そこで、目標が達成されていない内容に関しては、教師がもう一度復習をしたり、別のユニットで再度取り組んだりして、身に付けられるように工夫している。NEW HORIZON は巻頭にも学習の見通しを立てるページを見開きで設定している。そして、巻末の Can Do リストと対応させ、学習した内容が本当に身に付いているのか一覧で確認できるように工夫されている。

委員：どの教科書も登場人物が設定されていて、そのキャラクターと共に成長して学んでいくところは共通している。生徒達はどの程度そのキャラクターに共感しながら学んでいるのか。キャラクターはどのように生かされているのか。

委員：固有のキャラクターを登場させることは、英語に親

しみやすくする一つの手立てである。キャラクターを介して場面状況を想定し、キャラクターになったつもりで会話することができるなど効果は大きい。

委員：ストーリーの展開に合わせて、キャラクターがそれほど大きく教科書には載っていないが。

代表：補助的な役割である。

委員：自己評価について、NEW HORIZON でいうと Can Do リストを使い、生徒が自分の読む力が身に付いていないと感じた時には、読む力を身に付けるユニットのページに戻って復習することができるように提示されているのか。自分の課題を補いたいと感じた時には、Can Do リストを見てすぐその学習内容のユニットに戻れるものなのか。

代表：Can Do リストは、教科書の学習内容と、どのページで学習するのかが示されているので、すぐに復習することができる。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(東書：NEW HORIZON English Course)

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：小学校も東書か。

事務局：東書である。

東書の「NEW HORIZON English Course」が選定案として決定された。

【道徳】

(ア) 各見本本の調査報告

調査員代表から各発行者の教科用図書見本本についての調査報告があった。

委員：道徳の教科書は2年前に採択したが、この2年間でどんなところが変わったのか。

代表：例えば、日文だと今回はよりよい社会と私たちというユニットが新設されている。どの会社も2教材ずつぐらい変更されている。

委員：教材に関して、何か傾向があるのか。

代表：新しく掲載された教材の内容を見ると、思いやりについて考えることができる内容が扱われている。生徒が今後出会うと考えられる場面の内容が掲載されている。

委員：QRコードを読み取るとどんな内容が提示されるのか。

代表：教材で取り扱われる人物のダイナミックな写真などが提示される。生徒も今日はこの人物について学ぶということがよく分かり意欲的に学習に取り組むことができる。

委員：特別の教科道徳に関しては、教科書の内容を全て取り扱わず、22項目に応じて、各校の特色を生かし、投げ込み教材も使っていると思うが、35時間という限られた時間の中で、教材や読み物の役割は大きいと感じる。一覧表を見ると日文が最も評価が高いが、他者と比べて中身の教材が最もよかったということなのか。そして、ノートは本当に必要なのか。使いこなせるのか。現在使用している教科書にもノートが付いているが、使いこなせているのか。そのことについては、どんな議論がされたのか。

代表：教材については、各者よい内容の教材や読み物が掲載されている。日文の教材や読み物もよかった。道徳においては必要に応じて文科省の読み物教材や私たちの道徳等の教材と入れ替えることも可能とされている。ノートについては、調査に参加した保護者から、自分の子どもの考えを知ることができるので、大きな意味があるという意見をいただいている。また、生徒がノートにその時感じたことや考えを記入することで、後で振り返ることができ、より深い学びにつながるのではという意見も出た。ワークシートやプリント等を配付して補うこともできるが、プリントをなくしたり、ファイリングしていても量が多くなり、探すのに時間がかかったりするというこ

ともあり、ノートはあった方がいいという意見が多く出された。

委員：道徳が教科化され、教科書を使って授業をするようになったが、たくさん掲載されている教材を全て取り扱っているのか。また、前回の教科書採択の時に、現存している人物を取り上げるのはどうかという議論もあったが、そのことについて、教育現場ではどのような意見があるのか。

代表：教材に津市出身の人物が載っていると生徒も身近に感じられ、興味関心を持つことができる。教科書の内容は、35時間分それをしっかり使いたいという思いが教師にはある。調査員会でも教科書を使って授業をするということを基本と考え調査を進めた。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

(日文：あすを生きる)

委員：ノートが付いてなくても、この教科書を選定案として選んだか。また、その理由は。

代表：ノートが付いてなくてもよい教科書である。例えば、命の大切さを学ぶ教材で、2年生の「猿渡瞳さんの六百四十六日」という教材では、自分達と同じ位の女の子が、癌に冒されているということを知りながら、決してあきらめず、病気に負けずにがんばって生きていくという命の大切さを感じられる教材がある。自分達が読んでも、自然と涙が出てくるすばらしい教材である。調査員会でもぜひこの教材を使って授業を行いたいという意見が出された。

委員：ノートの活用について、保護者にもノートを見てもらうということであるが、どのように見てもらうのか。

代表：別冊のノートになっているので、学期末の懇談会でこのノートを基に生徒の考えていたことを話題にして、話し合うこともできる。

委員：保護者にノートを見てもらうことは、生徒が嫌がることはないのか。

代表：この2年間では、嫌だったという話は聞いていない。

委員：嫌がらないということは逆に本心を書いていないということではないか。

代表：授業でも話し合い活動がなかなか活発に行われなかったとか、本心が語られないということはあると思うが、生徒だけでなく、教師も考えさせられる内容が取り上げられている。教師も何度も何度も教材を読んで本心を語れる問いや授業展開を考えたい教科書である。また、ノートに書くことで、生徒の考えを整理させることができるということも考え、日文の「あすを生きる」が選定案としてふさわしいという結論に至った。

委員：小学校の教科書にはノートは付いていないということだが。

事務局：小学校の教科書はノートの付いていない教科書である。それぞれの学校で児童の発達段階に合わせて、教師がノートを作ったり、プリントを作ったりして、ファイルに綴じて残している。

委員：現行のノートと比べると、自由度が高まった。例えば、現行のノートは記述欄に、「〇〇について考えてみよう」とあらかじめ書かれていて、教師の指導の意図とずれてくることもあった。今回のノートは空欄になっていて、授業の流れや教師のねらいによって、振り返りを書かせることができる。使いやすく改善されていると思う。

代表：文章を書くのが苦手な生徒でも、〇を付けるだけで今日の学習はどうだったのかと簡単に振り返ることができるのもよいと判断した。

委員：評価にも使える。

(ウ) 調査研究結果の検討

委員：小学校の感覚だと、逆にこのノートは使いにくい

ではと感じる。形も正方形に近いので、小学校だと A3 版とか、A4 版に変更するかもしれない。記入欄も工夫したい。

委員：この枠の中で書きたいことが収まるのだろうか。書き足りないと感じる生徒もいるのでは。

委員：ノートを使わずに、プリントを作成して記入し、保護者に見てもらおうということもあるのか。

委員：プリントを作成しファイルに綴じていることはあるが、それを保護者に見てもらうことは少ないと思う。最後に評価を行い、保護者と懇談を行うので、そのプリントを基に生徒の考え方を伝えることはある。学校によって違う。

委員：今の子ども達は、ノートや日記を見ていいと言う時は、大体当たり障りのないことしか書いていない。本音を書いていたら見せたくない。

委員：読み物ばかりではなく、漫画やイラストを使い、形式をいろいろ工夫しているのが現代的である。子ども達世代の読み物というか、子ども達世代の流儀で作られている。大人世代の価値観に合わないものはだめというようなメッセージを発しているような気がして居心地の悪さを感じてしまう。

委員：道徳の教科書だが、国語と変わらないような気がする。内容が全然違うので答え方が変わってくると思うが。

委員：小学校は学研を使っているのか。

委員：学研を使っている。

委員：ノートを使うことに縛られるのはどうかと感じる。

委員：教科書に付いていると、使わなければならないと感じる。

委員：これに競合するのは東書ということか。

委員：競合するのは、東書、光村、学研になるが、評価は圧倒的に日文が高い。

日文の「あすを生きる」が選定案として決定された。

(5) 事項(5)について

その他連絡事項

調査員からの報告と調査研究委員会での協議内容を、8月17日(月)及び8月24日(月)の教育委員会に報告することが承認された。

また、教育委員会には、事務局員とともに調査員代表も出席し、調査結果等について報告することが確認された。

(6) 事項(6)について

閉会 森会長から閉会挨拶

会 長：長時間に渡り熱心に議論していただいた内容は、子ども達に返っていくことであり、本当に感謝しています。今後も御指導、御助言を賜りますようお願い申しあげて閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上、令和2年度 第2回 津市教科用図書調査研究委員会の議事要旨とする。

令和2年度 津市教科用図書調査研究委員会

会 長

森 昌彦



副会長

富田 昌平



